教科・「科目」	地歴　　世界史Ａ	単位数	学習形態	学年	履修系列、必修・選択の別　等
		2	座学	１年	全系列　必修科目

１．　目標と評価規準

目標	古代から現代までをとおして世界史の大きな流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目的とする。	
評価の観点と比重	評　価　規　準	評価の方法
関心・意欲・態度 （30％程度）	世界史に対する関心を持ち、積極的に取り組む姿勢を持っているか。	定期テスト　授業態度
思考・判断・表現 （10％程度）	過去の世界史的事象から、将来の世界の情勢について考察することができるか。	定期テスト　レポート
技能 （10％程度）	世界史を学ぶ際、どのような資料を活用すれば理解が深まるか。	ノート　　資料活用
知識・理解 （50％程度）	世界史の基礎知識や年表を習得理解し、現実の人間社会への認識を広げることができるか。	定期テスト
使用教材等	教科書「世界史Ａ」（東京書籍）　補助教材「明解世界史図説エスカリエ」（帝国書院）	

２．年間指導計画

学期	月	単元・教材名	配当時間	主な学習内容	ＩＣＴ利活用の概要
1学期	4	東アジア世界　南アジア世界	4	四大文明の一つ中国文明を中心として周辺の国々との関係を学習する一方で古代インド文明の特質について学習する。	○授業形態 Ⅰ　一斉授業 下記に示した使用機器をを活用し、教科書内容を提示、理解を図る。 Ⅱ　協働学習 教師の問いや話し合いにおける自分の考えを学習者用端末に書き込み、授業支援システムで電子黒板に映し出し、共有する。 Ⅲ　個別学習 学習者用端末を活用して、調べ学習や演習問題などを行う。 ○使用機器 電子黒板 学習者用端末 ○活用目的 教職員の説明資料 学習者の説明資料 繰り返しによる定着 創作
	5	西アジア世界　ヨーロッパ世界	8	古代オリエント文明からイスラム国家の成立過程を学習する。　　ヨーロッパの古典古代からキリスト教世界、中世世界を学習する。	
	6	東西世界の交流	6	東アジアの海域世界と日本、草原とオアシスの民、東アジアとアフリカを結ぶ海域世界、インド洋・地中海世界の交流について学習する。	
	7	アジア諸国の繁栄とヨーロッパ	10	アジア・アフリカ地域に対してヨーロッパ勢力が進出し、世界の一体化が進んでいく過程を学習する。	
2学期	9	大西洋世界の変容と波及	6	ヨーロッパとアメリカの諸革命の様相とそれが世界に与えた影響について学習する。	
	10	産業化社会の拡大と成熟	8	ヨーロッパにおけるウィーン体制の崩壊と国民国家形成の過程について学習する。	
	11	アジア諸国の変貌と日本	8	清朝末期のヨーロッパ列強や日本とのかかわりを中心にアジア諸国の変容を学習する。	
	12	帝国と民族の時代	6	第二次産業革命の進行と帝国主義による列強の世界分割の過程を学習する。	
3学期	1	二つの世界大戦の時代	6	第一次世界大戦の勃発から、戦間期の社会、第二次世界大戦の勃発と終焉までの過程について学習する。	
	2	冷戦と民族独立の時代	4	戦後世界の動向及びアジアアフリカの民族運動について学習する。	
	3	冷戦と民族独立の時代	4	冷戦構造の崩壊と新しい国際秩序や課題について学習していく。	

備考	（準備するもの） ・必ず世界史の資料を準備すること。 ・配布したプリントは必ずファイルしておくこと。